

環管計画

人と自然の共生をめざします。

「多摩川河川環境管理計画」は流域全体を視野に入れて多摩川の豊かな自然を保全しつつ、川が人々の多彩な活動の場となるよう、計画されました。

「空間管理計画」と「水面管理計画」の2つの柱から構成され、河川敷と水面・水際の秩序ある保全と利用について、それぞれ具体的な方針と区分を定めています。



5つのゾーンと8つの機能空間

「環管計画」の大きな特色は、5つのタイプのゾーンに応じて、河川敷を8つの機能空間に区分けしているところです。機能空間区分は「環管計画」独自のもので、有識者や住民のアンケート結果に基づき、地域特性や地域社会の要請に応じて設定されました。上流から下流にかけて様々な表情を持つ多摩川にふさわしく、それぞれの地域に合った利用と自然の保全が図られています。

5つのゾーン

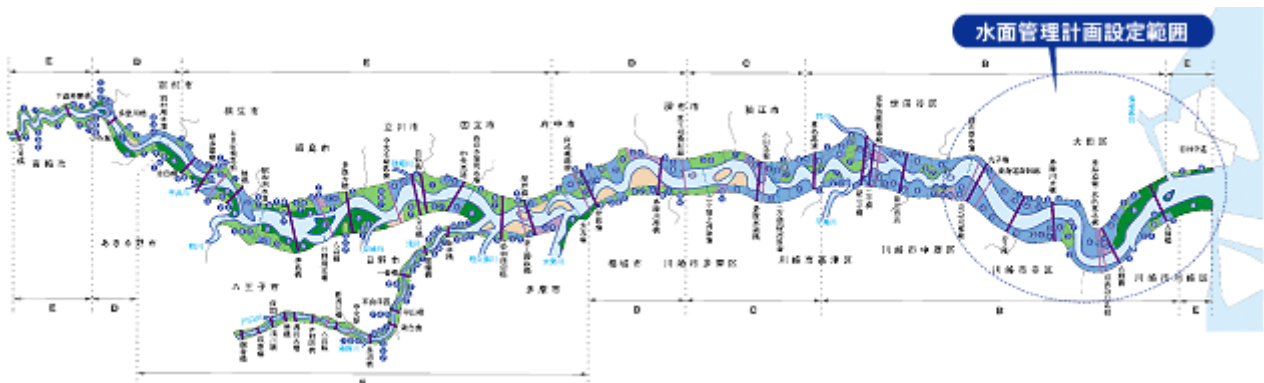
- A. 人工整備ゾーン … 運動施設、遊戯施設など、人工的施設を積極的に整備するエリア。
- B. 施設利用ゾーン … 人工的施設を中心に、文教施設などの利用も可能なエリア。
- C. 整備・自然ゾーン … 人工的利用と自然的利用が相半ばしているエリア。
- D. 自然利用ゾーン … 自然的施設を中心に整備、人工的施設も若干備えたエリア。
- E. 自然保全ゾーン … 自然生態系を保全するため、人工的施設は原則的に設置しないエリア。

8つの機能空間

- ① 避難空間
- ② 地先施設レクリエーション空間
- ③ 広域施設レクリエーション空間
- ④ 運動・健康管理空間
- ⑤ 自然レクリエーション空間
- ⑥ 文教空間
- ⑦ 情操空間
- ⑧ 生態保持空間

<対象区間> ■ 多摩川本川から万年橋までの区間 ■ 浅川の本川合流点から南浅川合流点までの区間
(*湯殿川合流点から南浅川合流点までの間は、ゾーン設定のみで機能空間区分は行っていません)

■ 空間管理計画図



ゾーンタイプと機能空間の関係

各ゾーンタイプは、自然系空間と人工系空間の面積比率に応じて決定されています。



ゾーンタイプ	機能空間区分						
	人工系空間			自然系空間			
	②地先施設 レクリエーション空間	③広域施設 レクリエーション空間	④運動健康 管理空間	⑤自然レクリエーション 空間	⑥文教空間	⑦情操空間	⑧生態系保持 空間
A人工整備 ゾーン	✿	✿	✿	✿	✿	✿	✿
B施設利用 ゾーン	✿	✿	✿	✿	✿	✿	✿
C整備自然 ゾーン	✿	✿	✿	✿	✿	✿	✿
D自然利用 ゾーン	✿	✿	✿	✿	✿	✿	✿
E自然保全 ゾーン	✿	✿	✿	✿	✿	✿	✿

自然系空間と人工系空間の面積比を6:4と定めています。

■自然系空間・人工系空間の面積比

6 : 4

